月刊
オリーブ
2024
3
Vol.106
— 真の更生を目指して —

10周年を迎え「価値観を共に」

特別な日

私にとって特別な春がやってきました。ご存知の方もおられるかもしれませんが、初めての方に、この特別な日【3／3】をお知らせしたいと思います。15年の刑期を終え熊本刑務所を出所したのが13年前2011年（3／3）の事、第二の人生のスタートですから忘れる事はできません。2013年（3／3）に結婚、オリーブの家が自立準備ホームに認定されたのが翌年2014年（3／3）66歳の時です。70歳まで働けたらと思っていましたが、あっという間に10年が過ぎ、感謝なことに元気に、この日を迎える事が出来ました。忘れる事が出来ないのは熊本地震の翌年2017年（3／3）「熊本オリーブの家・聖書フォーラム」の開所です。ハーベストタイムの中川先生が、集まった30数名のファミリーに語ってくれた言葉です。

1 人生は、やり直しができる
2 あなたは愛されている
3 神を畏（おそ）れて生きなさい
（神を畏れる人のそばで生きなさい）…は、オリーブの家のスローガンとして今も大切に継承しています。このように【3／3】は私にとってのターニングポイントとなっています。

今回は記念すべき「号」との認識から誠に恐縮ですが、私的なことに触れるのをお許し下さい。

【価値観】とは…「何にどんな価値観を見出すか」という感じ方や考え方のことです。善悪をはじめ、物事を評価する際の判断基準とも言えるでしょう。これが価値観です。妻（順子）と知り合い12年、結婚して11年目の春を迎えます。私生活も仕事も常に一緒、24時間、価値観を共有する同労者ですから中身の濃さは年数ではとても測れませんし、感謝なことに信頼関係も強固なものとなっています。神様が与えてくださった価値観を共に生きる大切な存在です。

価値観を共にする仲間たち

オリーブの家がスタートする前、我が家では月一度の家庭集会を大切にしていました。礼拝し、食事を共にする。多いときには10名、少ない時でも6名ほど食事作りから片付けは神様に用いられる喜びでとても感謝でした。オリーブの家がスタートしてからは家庭集会の存続は難しく中止しましたが、その家庭集会に当初から参加してくれていたのは、現在オリーブの家の事務長をしている「井博司」です。彼はシンガポールの友人から私の存在を知り教会に訪ねてきたのでした。それ以来価値観を共にする仲間となっています。

オリーブの家では第3期となる聖書勉強会を開催しています。お一人は仕事をしながらですからお休みの日に時間調整しての勉強会です。今年に入り4回目の勉強会で彼は「福音の三要素」を受け入れ信仰告白をされました。価値観を共有できる仲間がまた一人与えられたのです。イエス様万歳！

喜んでいる者たちとともに喜び、
泣いている者たちとともに泣きなさい。
（ローマ人への手紙　12章15節）

一方、外に目を向けると価値観の違いが顕著です。世界各地で起きている紛争然り、アメリカ社会の分断も懸念材料としての報道がなされます。何より、今の日本の有り様が私達の心を騒がせます。今こそ「万人祭司」信仰に基づいた普遍的な価値観に立ち返る時だと強く感じています。

オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

「オリーブの家からの自立」

小郷康之

私は令和5年7月上旬、罪を犯し、留置所に収監されました。全く先の見えない状況の中、7月28日に保護観察所の決定により「オリーブの家」にやってきました。

当初は環境の変化になじめず、引きこもっていました。しばらくして青木理事長と一冊のノートを介して言葉の交流・心の交流を始めました。色々な想い、苦悩、葛藤をありのままに書き記しました。そのひとつひとつの事に対して、寄り添って頂いた事で、心を開く事が出来てスタッフの方、入室されている方々とも会話などのコミュニケーションが出来るようになりました。

さらに毎週行われる礼拝を通して確固たるものになっていく自分を実感していきました。

同時に就職活動も開始し、希望に沿った企業を紹介して頂きました。過去のあやまちが就活に影響を与えないか不安でいっぱいになりました。「自信をもって望みなさい。あなたの持ち味を発揮すれば道は開けます」交流ノートで頂いた言葉です。

昨年10月1日から今の職場に就くことが出来て現在に至ります。今年の1月下旬に退室期限を迎えるにあたり今後どうするか理事長に相談をしました。私の想いは「引き続きオリーブの家を拠点にして生活したい」です。勿論、生活していくわけですから費用は負担していきます。理事長はじめスタッフの方々は、この想いを快く引き受けてくださりました。感謝します。

今現在は働きながら週一回の勉強会、そして礼拝に参加しています。聖書を通じて、礼拝を通じて、みなさんの声を聞く事によって、自分の想いをみなさんに伝える事によって、人生が豊かになっていく事を実感しています。

今後の夢としては、オリーブの家で受けた〝愛〟、この〝愛〟を通して変わる事が出来た自分のこの想いが、苦しみ悩まれている人に少しでも寄り添っていけるように、もっともっと貪欲に勉強し交流していきたい！ そう思います。

オリーブの家での彼との交流は交換日記から始まりました。彼の窮状は日記から痛いほど伝わります。オリーブの家に来て初めてイエス様のことを聞いた時の彼の印象は「戸惑い」だったように思います。ご両親と共に別の信仰を持っておられたからでしょう。ある時「墓参りに行ってきます」と言って出掛けた時が彼の他界されているご両親へのケジメだったように思いました。

青木康正

2月の農園だより

オリーブの畑の周辺には蝋梅が咲きほこり、風に乗ってなんとも言えない芳しい香りが漂ってきて、畑作業の労にも慰めを感じるこの季節。いよいよ冬野菜の本格的な収穫時期となっております。収穫物は人参・小松菜・ほうれん草です。オリーブの食卓に、味噌汁の具材やお浸しにと、恵みの味をたくさんいただいております。大根も葉っぱは生い茂ってきたのですが、肝心の根っこがまだまだ小さく、間引きで抜いていただくと、肝心の大根は小さいながらもとても柔らかく、葉っぱはシャキシャキです。

春野菜に備えて畑を耕し、植付の時期を待つばかり。植える楽しみ、収穫する喜びに、感謝感謝のオリーブ農園です。

（農園長）

支援者からの寄稿

DVはなおせる！

NPO法人 女性・人権支援センターステップ
ファシリテーター　佐藤　敬

3．身につけたい習慣

選択理論を提唱したグラッサー博士は、人類の歴史始まって以来、科学技術が確実に、急激な右肩上がりの進歩を見せてきた一方で、人間関係の質は底辺近くで、ほとんど横ばいで、成長の跡が見られないことを指摘し、その原因は「科学技術の領域では、理論が間違っていれば、新しい理論が取って変わり、そこに進歩がある。が、人間関係の領域では、従来からの外的コントロール心理学が依然としてこの世を支配しているからだ」と述べています。

外的コントロール心理学の考え方は「人は外側からの刺激によって動機付けられる。よって、与える刺激次第で相手を変えることが出来、思い通りにコントロールできる」というものです。そのためによく使うのが、批判する、責める、文句を言う、がみがみ言う、脅す、罰する、褒美で釣るなど、ほかにも沢山ありますが、人は生まれた直後から、成長の過程で、家庭で、学校、職場で、周りの人が使っているこれらの行為を受け入れ、真似して習得していきます。

興味深いことに、人は本能的に他人を自分の思い通りにコントロールしたいという欲求を持っていますが、反対に、誰も怒鳴られ、責められ、脅され、批判され、支配されることを望みません。DV・虐待をはじめとする多くの暴力、犯罪、アルコール、ドラッグなどの社会問題の多くの原因が、これらの致命的習慣から来る不満足な人間関係にあると博士は指摘します。自分の願望を押し付け、欲求充足を相手に依存する自己中心的なものです。

ステップでは、DV加害者が、これまで当たり前として使ってきたこういった関係性を破壊する習慣を手放し、それに代わる傾聴、支援、尊敬、信頼、受容、励まし、違いを交渉することなどを推奨します。博士はこれらを内的コントロール心理学＝選択理論、に基づく「身につけたい習慣」と位置付けました。「人の動機づけはすべてその人の内側から欲求充足しようとしてされる。よって、他人を変えることは出来ない。行動はすべて本人の選択と責任である」というものです。相手を自分と対等の一人格として、批判なく、あるがままを受け止め、尊重します。ステップでは、相手が何を望んでいるか、心と耳をしっかり傾けて聞くこと。そして、励まし、寄り添い、支援することの具体的な方法を提示します。内的コントロール心理学の習慣は相手をも自分をも生かす自利利他の愛の行為です。私たちが、自分のでなく、相手の幸せに焦点を当てる時、相手の喜びが即、自らの喜びとなります。

十字架に示された神様の愛の福音が宣べ伝えられる時、同時に、選択理論も一緒に、世界中の人に伝えられて、学んでもらえると、どんなに素晴らしいことかと心から願うものです。

佐藤　敬
さとう・けい

1945年生まれ。高知県出身。日本選択理論心理学会会員。柿谷カウンセリングセンター結婚紹介室室長、カウンセラー。元リアリティセラピー協会グループホーム生活指導員。元立正大学心理学部講師。お茶の水聖書学院卒。藤沢福音自由教会会員。6年前からステップのDV加害者更生プログラムに関わっている。
著書：「アメリカの大学で」
「英語の色ミニ百科」
訳書：「とっておきのクリスマス」
「ハッピーティーンエイジャー」
「ウイリアム・グラッサー」ほか

オリーブの家で見つけた笑顔

仕事の手を休めて外に出ると、手ごろな散歩コースがあります。オリーブの農園もすぐ近くです。その傍に座って目を閉じると、幾種類もの鳥のさえずりが聞こえてきます。しみじみとオリーブの家が置かれた所は良い場所だなと思いました。

柔らかな笑顔。ゆったりとした体形。丁寧な話しぶり。つい先日食堂で爽やかな笑顔を見せてくれたOさんです。オリーブの家にきて半年がたち、彼が手に入れた一番のものは、心に信を置く事で得た平安ではなかったでしょうか。

副理事長　小原順子

2023年11月～2024年1月会計報告

		11月	12月	1月
月次自立準備支援人数		6名／6室	5名／6室	4名／6室
グループホーム利用者数		8名／8室	8名／8室	8名／8室
累計ファミリー数		156名	157名	157名
収入	自立準備ホーム	855,360	965,960	812,592
	献金	491,650	1,089,740	1,021,500
	グループホーム	2,178,077	2,269,868	2,009,818
	その他	71,628	133,153	70,000
収入合計		3,596,715	4,458,721	3,913,910
支出	家賃	457,600	457,600	457,600
	水道光熱費	151,929	193,456	240,901
	食費	519,642	516,944	582,369
	人件費	2,009,387	2,277,969	2,160,360
	活動費	88,590	194,262	46,071
	その他経費	456,546	600,833	478,860
支出合計		3,683,694	4,241,064	3,966,161
収支合計		-86,979	217,657	-52,251

前月繰越現金預金残高	4,390,783	3,916,388	4,803,957
翌月繰越現金預金残高	3,916,388	4,803,957	4,176,111
施設準備積立金残高	2,600,093	2,650,093	2,700,093

※　食事関連費には、おせち代194,832円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

この３月で10周年を迎える事ができました。皆様の温かい愛に溢れるご支援とお祈りがあってこそと、感謝致します。オリーブの家の集会では、集われたファミリーの為に毎回「君は愛されるため生まれた」を賛美しています。今気づかされることは、この賛美はオリーブの家の為でもあったということです。これからも皆様からの尊いご愛に支えられつつ、愛に溢れたホームを運営して参ります。

理事　濱﨑　望

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2024年３月１日発行
(毎月1回発行)　第106号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123　FAX 096-342-4248　E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/